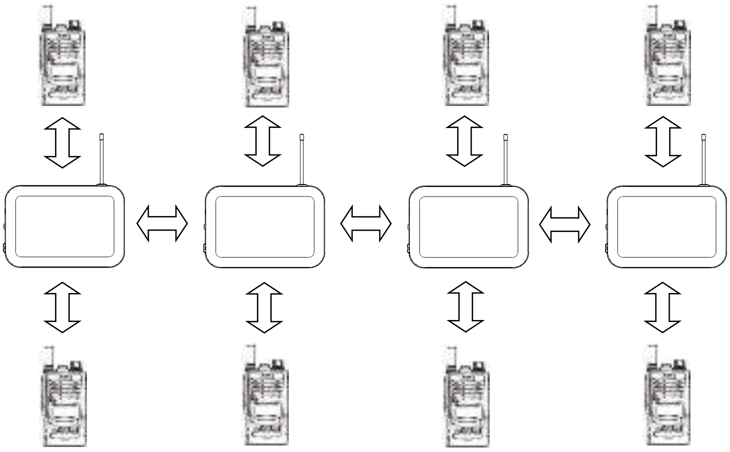
DJ-P240　連結中継モード 取扱説明書

DJ-P240 は中継器を複数台使って通話エリアを拡大する「連結中継モード」の子機として使用できます。中継器には連結中継器モード対応の中継器（DJ-U3R など）をお使いください。
また、連結中継子機モードにした本機を、連結中継器の設定をするためのリモコンとして使用します。手動設定や交互通話中継リモコン対応機では設定できません。リモコンによる設定方法は後述の「２）連結中継器の設定変更方法」をご覧ください。



【特徴】
・最大 4 台までの中継器を無線連結させて通話距離を大きく伸ばすことができます。子機は自動で最寄りの中継器にアクセスするため、中継器に合わせてチャンネルを変える必要がありません。

【注意】
・子機は最適な中継器を探して常にスキャンするので、バッテリーセーブは動作しません。このため通常の交互通話中継時より電池は早く減りますが、異常ではありません。
・連結中継モードは、一般的な中継対応トランシーバーでは設定も通話もできません。本機のような、この機能に対応するトランシーバーが必要です。
・設置に関する説明と注意点は、中継器の取扱説明書をお読みください。正しく設置しないと誤動作します。

１）連結中継子機モードにする

以下の操作をすると DJ-P240 の通話モードに「連結中継子機モード」が追加され、自動的にこのモードに切り替わります。

①DJ-P240 の[ファンクション]キーを約 2 秒間長押しして簡易キーロックをかけます。キーロック後ディスプレイに「　」が点灯します。

②簡易キーロック後 10 秒以内に「ファンクション」キーを４回、さらに 「中継」キーを４回続けて押します。キーを押し終わると「ピピピ」音が鳴り、交互通話モードから連結中継子機モードに切り替わり、ディスプレイに「18 LnK-A1」が表示されます。



DJ-P240
交互通話モード



DJ-P240
連結中継子機モード

参考：交互通話や中継子機モードに戻したいときは、ファンクションキーを押した後でモードキーを押して、ダイヤルを回して通話モードを選び、PTT キーを押して確定します。(DJ-P240 取扱説明書 P.27 参照)
連結中継子機モードに戻る時も同じ操作をしてください。簡易リセットはこのモードも含めて設定内容を初期化できます。完全リセットをすると、連結中継子機モードはモード切り替えでは出てこなくなります。改めて上記の操作を繰り返してください。（リセットの詳細は説明書 P.45,46 参照）

２）連結中継器の設定変更方法

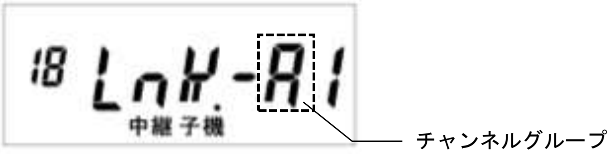
連結中継子機モードでは、あらかじめグループ化された A～H の 8 つのチャンネルグループを１つ選択して、全ての DJ-P240 と中継器を同じチャンネルグループに合わせます。1 台の DJ-P240（以下、リモコン機）を使ってこの設定をします。

【ご注意】

基本的には初期状態が最適な設定となっており、中継器番号とチャンネルグループを合わせる以外の設定をする必要はありません。「４）連結中継セットモード」は意味を分かって変更しないと故障と思うような動作をするので機能の意味を良く理解して、通話実験をしてから設置・運用してください。

① 基本的には初期状態の機能設定を変更する必要はありません。もし後述の４項のセットモード３つを設定したいときは、ここでセットモードに入って変更しておきます。中継器の AC アダプターはコンセントの近くに置いて、すぐにコンセントに挿せるよう準備しておきます。（まだ中継器の AC アダプターはコンセントに挿さないでください。）

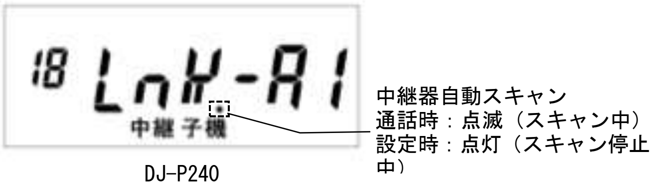
② リモコン機のダイヤルを一度押すとチャンネルグループのアルファベットが点滅します。ダイヤルを回して A～H のグループを選びます。PTT キーを押すと点灯に変わり、確定します。



DJ-P240
連結中継子機モード

メモ：チャンネルグループ A は初期状態の設定のため多用されます。チャンネルグループ A 以外を選ぶ方が混信を受けにくくなります。

③ リモコン機の中継器自動スキャン機能を止めます。DJ-P240 の[中継]キーを押しながらダイヤルを押します。中継器自動スキャンが止まると点滅している「.」(ドット)マークが点灯に切り替わります。



DJ-P240
連結中継モード

④ リモコン機のダイヤルを回して１台目の中継器に割り当てる番号「1」を選択します。



DJ-P240
連結中継モード

参考：２台目以降、連結する台数分の中継器番号を「2」～「4」に切り替えて同じ操作をします。２台目は「２」、３台目は「３」四台目は「４」にします。この番号は設置の時も重要になるので、目印を付けるなどして間違えないようにしてください。

⑤ リモコン機の[ファンクション]キーと[モニター]キーを同時に 3 秒間押し続けるとディスプレイに 送 が点灯して、設定内容の転送が始まります。



DJ-P240
連結中継子機モード 設定内容送信

⑥ 転送が始まったら速やかに AC アダプターをコンセントに挿して中継器の電源を入れます。リモコン機からの設定用信号を受信し始めます。

⑦ 設定内容の転送が終わるとリモコン機のディスプレイに「〇〇〇〇〇〇」が表示され、「プルル」音が鳴ります。１台目の中継器に設定が反映され、設定が終わります。



DJ-P240
設定内容送信完了

⑧ 連結する台数分の中継器を同じ要領で初期設定します。④の中継器番号を「2」「3」「4」番まで、使用する台数に合わせて設定して、⑦まで操作を繰り返します。例えば 3 台連結する場合は、それぞれ中継器番号が「1」「2」「3」と表示されます。

⑨ 全ての中継器の設定が完了したら、リモコン機の「中継」キーを押しながらダイヤルを押して中継器自動スキャン機能を ON に戻します。「.」（ドット）マークが点滅に変わり、このまま通話用の子機として使えます。「.」（ドット）マークが点灯中は正しく通話できません。

連結中継子機に使う DJ-P240 を全て、「１）連結中継子機モード変更方法」の手順で連結中継子機モードにしてダイヤルを回し同じチャンネルグループに合わせます。このとき中継器番号を設定する必要はありません。連結中継子機を 4 台使うなら 4 台に同じ操作をして「LnK-A1」と表示させます。

これで通話のための設定は終わりました。正しく設定できたかどうかの取りあえずの通話実験は、１番と２番の中継器があればできます。３～４番機は中継器番号さえ間違っていなければテストする必要はありません。DJ-P240 の使い方は次の３）の項目をご覧ください。
１０ｍ以上離して２台の中継器を仮置きします。子機すべてを使い、２台の中継器の周りを移動して中継通話ができることを確認します。距離が近いとシステムが干渉し合い、ノイズが乗ったりつながりにくかったりしますが、声が聞こえていれば設定はできたと判断できます。
テストが終わったら、中継器の AC アダプターを抜きます。中継器の説明書を参照して運用場所に正しく設置します。再び AC アダプターを挿すと、20 秒後に前回設定した状態の中継器モードで起動します。この 20 秒の起動中はセットモードになっているので、近くで DJ-P240 を含む無線機類を一切送信しないでください。設定が誤って変更されてしまう恐れがあります。

３）連結中継子機モードでの通話・中継器スキャン

DJ-P240 の[PTT]キーを押し続けると、ディスプレイに 送 が点灯し、送信が始まります。このとき中継器へアクセスするまでの間、「ピピピ」音が鳴ります。[PTT]キーを押し続けたまま、アクセス音が鳴り終わってからマイクに向かって話します。受信側の DJ-P240 は、ディスプレイに 受 が点灯し、送信側からの音声がスピーカーから聞こえます。通話を終わるには PTT キーから指を放します。DJ-P240 に PTT ホールド機能を設定していると一度 PTT を押すだけで送信になり、もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。PTT を押し続けなくて良いのでハンズフリーに近い状態で通話できます。

通話をしていないとき、DJ-P240 は最寄りの中継器からの信号を受信して、その中継器へのアクセスができるように自動的に設定を合わせます。ディスプレイにはアクセスする中継器番号が表示されます。



DJ-P240
中継器①が最寄りの場合



DJ-P240
中継器④が最寄りの場合

4）連結中継セットモード

連結中継子機モードには、環境や特定のニーズによってカスタマイズできる項目をセットモードに採用しています。この設定項目は連結中継子機モードを有効にした場合のみメニューに表示されます。基本的には初期状態が最適な設定となっており、通常は設定を変更する必要はありません。意味が分かって設定しないと「通話できない」や「頭切れが起こる」などの故障と思うような動作をしますのでご注意ください。

【ご注意】
これらの設定内容は子機と中継器の全ての機器に反映しないと動作しません。子機の設定を変更したあとは、必ず「２）連結中継器の設定変更方法」の手順で全ての連結中継器と子機が同じになるよう再設定してください。

	メニュー	初期表示	選択項目	初期値	※押す回数
54	連結中継アクセス速度設定	noL LnK-SP	noL/FSt	noL	53
55	連結中継ビーコン間隔時間設定	10 LnK-bc	oFF/5/10～60	10	54
56	連結中継アクセス音・エンドピー設定	S-E LnK-bp	oFF/St/End/S-E	S-E	55

No.54　連結中継アクセス速度設定　noL LnK-SP
連結中継の通話開始（応答）のときのアクセス速度を設定する機能です。初期値の「noL(通常)」は通信精度を優先するため連結中継アクセス速度に時間がかかり、通話開始（応答）のときに長めの頭切れが発生します。「FSt（高速)」に切り替えることで通信速度を優先するようになり、この頭切れを緩和することができます。ただし、通信速度を優先することで別の電波類、ノイズなどからの干渉を受けやすくなり、混信の多い環境では最寄りの中継器を誤認することがあります。使用環境の状況にあわせて、あらかじめお試しください。

No.55　連結中継ビーコン間隔時間設定　10 LnK-bc
中継器は子機に最寄りの中継器を判定させるのに、10 秒ごとに 1 回中継器から約 1 秒間ビーコン（目印の信号）を送信します。そのビーコンを送信しているときに通話が始まるとキャリアセンスが働き、しばらく通話できないことから頭切れが発生します。そのビーコン時間の間隔を長くすることで、ビーコンによる頭切れの発生頻度を少なくすることができますが、子機が最寄りの中継器を探しだす更新時間も長くなります。逆にビーコン時間の間隔を短くすると子機が最寄りの中継器を探しだす更新時間は速くなりますが、ビーコンによる頭切れの発生頻度が多くなってしまいます。使用者の通話頻度や移動頻度にあわせて調整してください。

このビーコン機能を解除すると最寄りの中継器に手動でアクセスできます。例えば作業者ごとに作業エリアが決まって、他のエリアに移動しない環境では、最寄りの中継器を変える必要がありません。固定にすると最寄り中継器の取り違いの改善、通話開始（応答）のときのアクセス速度が早くなるなど、使い勝手が向上します。中継器でこの設定を「OFF」にしたあと、子機の[中継]キーを押しながらダイヤルを押して中継器自動スキャン機能を OFF にします。OFF になるとディスプレイの「.」(ドット)マーク表示が点滅から点灯に変わります。すべての子機にこの操作をします。ドット点灯中にダイヤルを回すとアクセスする最寄りの中継器を手動で選べます。

No.56　連結中継アクセス音・エンドピー設定　S-E LnK-bp
連結中継の通話開始（応答）のときのアクセス音「ピピ」と、通話終了時になるエンドピー音の動作を切り替える機能です。連結中継モードでのエンドピーはこの設定が優先となり、通常のセットモード項目「No.13 エンドピー」では変更できません。

S-E：アクセス音、エンドピーの両方が鳴ります。
End：エンドピーのみ鳴ります。
St ：アクセス音のみ鳴ります。
OFF：アクセス音、エンドピーの両方が鳴りません。

注意：
アクセス音を止めた場合、応答から中継通話を始められるまでのタイミングが分かりづらくなります。通話開始のときは長めに時間をおいてから話してください。

以上

アルインコ（株）電子事業部